

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員の目の触れる場所へ法人の理念を掲げて意識の統一を図っている。全体会議・ユニット会議等の場においてもより良い施設を目指して意識の統一を図っている。 | 理念については玄関の目に付き易い所に掲示し共有に努めている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。理念に合わせた「利用者の心に寄り添い、お話しをお聞きし心をください介護に取り組む」という管理者の介護方針に向かい、支援に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 区長さんをはじめとする地域の方々への相談や情報提供をして頂いたり地区行事への参加をさせていただいたり、地域の方と交流する機会をもっている。 | 開設以来区費を納め、地域の一員として参加出来る行事には参加し活動を続けているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け地区の敬老会、秋祭り、保育園児童との交流会、各種ボランティアの受け入れ等、3年近く中止状態が続いている。現在も自粛せざるをえない状況であるが、区長始め地域の方との関わりが途切れることのないよう心掛け、ウィズコロナに向け活動を再開する予定である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 包括支援センター・居宅介護事業所からの紹介者の見学や地域の方へ向け当事業所の内容を紹介する機会を設けて理解いただけるようにしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議において利用者様やサービスの実践状況を報告し、頂いた助言や改善策案を実際の現場でのサービスの向上に努めている。 | 2ヶ月に1回、同じ法人のグループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で運営推進会議を開催しているが、現在、新型コロナウイルスの影響を受け書面での開催となっている。家族代表、区長、民生児童委員、地区社協代表、市高齢者活躍支援課職員、地域包括支援センター職員の会議参加メンバーに対し利用状況や職員状況の報告、事故・ヒヤリハット報告、行事報告等を書面として纏め、また、お届けしご意見をいただくようにしている。 | ウィズコロナという今後の流れの中で、参集し対面で行う運営推進会議の開催に向けて、法人内の地域密着型2施設との打ち合わせを進め、開催に向け準備を進めることを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議へ出席していただき、助言をいただいている。事故報告等についての市への一報や対応について指導をいただいている。 | 新型コロナ禍の状況下、市高齢者活躍支援課とは必要事項についてメールでやり取りをしている。地域包括支援センターは同じ敷地内にあり、利用者の入居相談等、様々な事柄について連携を取っている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応し実施している。市あんしん(介護)相談員の来訪もコロナ禍で見送られているが、収束後には再開する予定である。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束排除の意識をもってケアをしている。玄関の施錠については、神奈川県的事件後から施錠している。理由は玄関の出入りが死角になるためである。 | 身体拘束をしないことを基本とし支援に当たっている。現在、夜間ベットから転落する危惧のある利用者が若干名おり、家族と相談の上、夜間のみベットの片面を壁に付け安全確保に努めている。そのような中、月1回検討会を開き職員間で情報を共有し支援に取り組んでいる。玄関は幹線道路に面しているため施錠がされている。また、3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、拘束のない支援に繋げている。 | |

グループホームこもれ陽栗田

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者・職員が高齢者虐待防止関連法についての意識を強くもち、事業所内での虐待が見過ごされていないか注意を払い職員会議または通常のミーティングの中においても常に意識するようはなしている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用されている利用者様がいる。管理者および職員は関係者と連携をとり、支援を実施している。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時に契約内容、重要事項等の説明を充分に行い、不安や疑問点を確認したうえで同意を得ている。 | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 事業所の新聞は隔月で発行し、利用者様の様子をお知らせしている。別に毎月ご家庭宛にお便りを出し、ご意見ご要望をお伝えいただくように通知しているとともに来所時や電話にてご意見をいただけるようにしている。 | 新型コロナ禍が長引き家族との面会はオンラインでの面会が続いていたが、昨年の夏以降、事前に連絡を頂き感染対策を取った上で玄関先での面会を行っている。そのような中、ホームでの生活の様子は2ヶ月に1回発行される便り「こもれ陽新聞」で知らせ、合わせて電話でもきめ細かく家族との連携を図り、月1回請求書に同封される手紙にも担当職員より一言コメントを添えて届けるようにしている。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は職員と同様に介護業務をしつつ職員の意見や提案に向き合い、話をしている。全体会議、ユニット会議での意見の交換、毎月のユニット会議でのカンファレンスの場においても意見の交換をしている。 | 毎月25日の午後全体会議を行い、行事予定、事故報告、課題などを議題に話し合い、サービスの向上に繋げている。また、ユニット毎に別れカンファレンスを行い、利用者一人ひとりのより良いケアについて繋げるようにしている。法人として人事考課制度があり職員は自己管理シートを用い、6ヶ月に1回自己評価を行い、管理者による個人面談も行われ評価とモラルアップに繋げている。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は事業所の管理者と共に職員の勤務状況の把握をし、資格取得の支援やスキルアップができる体制を整備している。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修を受講し、知識や技術を習得し個々の意識や意欲を高めるよう勧めている。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修の場で他事業所職員とケアの情報交換ができる場を作っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に自宅や施設を訪問し、本人、家族と面談する中で困っていることや不安なこと、要望をヒヤリングしたうえで本人、家族に安心していただけるように関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族から今までの生活歴、家族関係、現在の生活の状況、心情を引き出し信頼できる関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族の状況や希望をお聞きして必要としているサービスを見極めるよう努めている。又必要としているサービスが他のサービスである場合は説明し、紹介している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員と利用者という関係だけでなく、人対人として時間を共有している関係を築けるようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族への連絡、特に遠方のご家族様へは、電話、通信にて本人の様子を連絡、報告するとともに相談をしている。本人に手紙を書いてもらうこともあり、家族との連携を常に意識している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの店、馴染みの人と関わる時間を作っている。 | 新型コロナ禍の状況下、友人や知人との面会は自粛している。そうした中、携帯電話を持つ利用者があり、家族と連絡を取り合っている。また、利用者の欲しい物等については家族に連絡をして届けていただいている。また、年末には職員と共に年賀状を作成し家族あてに出している。理美容については3ヶ月に1回、馴染みとなった美容師の来訪がありカットをしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係性は常に把握し、職員間で情報を共有し孤立する利用者がいないように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後であっても来所して下さる家族がいる。利用者の思い出や入院中の方は、現在の状況をお聞きして相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の中で発する言葉、表情等により希望や意向を察するように努めている。 | 殆どの利用者は自分の意思を伝えられる状況であるが、若干名の方が発語が難しい状況であり、問い掛けに対しての表情や仕草から希望を受け止め意向に沿った支援に繋げるようにしている。そうした中、飲み物や洋服選び等は幾つか提案をして選んでいただくようにしている。また、日々、気づいた言動等は業務日誌に纏め情報を共有し、出勤時に確認しあい利用者の希望に沿えるように取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 以前の生活歴の情報が少ない方は本人、家族来所時に生活歴を伺っている。新規入居の方には入居前事前訪問時にこれまでの暮らし、生活環境、得意なこと、配慮すべき点などを確認している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 出来ないことに目を向けるのではなく、できることを見つけ出ししていくように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向を確認している。日々のカンファレンスの中で課題とケアのあり方について職員間で話あっている。 | 職員は1～3名の利用者を担当し、居室管理、消耗品の補充、誕生日カードの作成等を担当している。職員会議でのカンファレンスや日々の申し送り時等に意見を出し合い随時モニタリングを行い、受診時や電話で聞いた家族の希望も加味しながら管理者がプランの作成を行っている。入居時は1週間～10日間様子を見て暫定プランを作り、その後、短期目標は6ヶ月、長期目標は12ヶ月で見直し、状態に変化が見られる時には随時見直し一人ひとりに合った支援に繋げている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日のケア記録、申し送り、カンファレンスを通して、個々の状況把握をし、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族の状況、その時の時々生まれるニーズには、その都度対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の役員、地区社協との協働により、利用者が豊かな暮らしを送れるように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力病院や利用者の主治医への受診支援を行い、連携をとっている。家族対応の受診では必要な情報を交換している。 | 利用契約時に受診支援についての希望を聞きホームとしての取り組みについて説明している。現在、若干名の利用者については入居前からのかかりつけ医で受診し家族がお連れしている。他の多くの利用者はホーム協力医の月1回、2ヶ月に1回の受診で家族か看護師がお連れしている。現在は新型コロナ禍でもあり利用者に変化がなければ家族に情報提供書を渡し薬のみもらって来ていただいている。また、看護師が常駐しており、日々の健康管理に努めている。歯科については歯科衛生士が月1回来訪し口腔ケアにあたり、協力歯科との連携の下、必要に応じ受診で対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師を配置し、利用者の健康チェック、薬の管理、医療機関との連携をとっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は家族、入院先医療機関の地域連携室、病棟看護師等の関係者に連絡し、長期化しないように連携をとっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に重度化に伴う指針について説明を行い、同意を得ている。 | 重度化した際の指針があり、利用契約時に説明している。体調に変化を来し重度化に到った時には家族、看護師、ホームで話し合いの機会を持ち、家族の意向も確認の上、医療行為を必要としないホームとして出来る限りの支援に取り組み、状態によっては医師の判断を仰ぎ、他の施設への住み替えも含めた支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の急変、事故発生時に備えての救急法の訓練が確実にできていないのでミーティングの際にお互いに知識を確認しあっている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 日勤帯、夜間帯を想定しての火災訓練。洪水訓練の避難方法、協力体制について運営推進会議で報告している。 | 消防署へ届け出の上、年2回防災訓練を行っている。秋には火災想定で消火器を使い初期消火訓練を行い、避難経路を確認の上利用者全員が外へ移動しての避難訓練も実施し、合わせて通報訓練も行っている。また、2月には水害想定での避難訓練と緊急連絡網の伝達訓練を行う予定になっている。備蓄として「水」「米」「レトルト食品」が3日分備えられている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 1人1人の人格を尊重するための敬語をつかうことを基本とし、状況に応じた対応、接し方を会議の席や日常のカンファレンスで確認しあい、その都度お互いに注意したり管理者が注意している。 | 言葉遣いには特に気配りをし、親しみを込めつつも馴れ合いにならないよう全体会議の中でも徹底を図っている。また、トイレ介助にも気を付け、入り口のカーテンは必ず閉め、プライバシーに配慮するよう心掛けている。呼び掛けは基本的に苗字に「さん」付けでお呼びし、「ちゃん」付けはしないよう徹底している。また、入室の際には「ノック」と「失礼します」との声掛けをしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常の会話の中から本人の思いをくみとり、何気なく口にした言葉をかきとめ、職員間で共有し、自己決定できるように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ユニットケアの基本は一人一人の体調や生活リズムに添った暮らしを尊重することであると認識し、体調やペースを大切にし、柔軟な対応を心掛けている。本人のペースを尊重し、職員のペースや都合で支援してはならない。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 不定期に依頼している美容師による散髪は希望に沿ったヘアスタイルにしている。洋服は利用者に選んでいただくなど意思を尊重した支援をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 四季折々の食材を取り入れ、好みを聞き、献立に取り入れている。食事の下ごしらえ、食事の準備、下膳、食器洗いなど一緒にやっている。 | 自力で摂取できる方が三分の二、一部介助の方が数名という状況である。献立は利用者の希望も聞きながら職員が以前の献立を参考にダブらないよう意識し1週間分の献立を立て職員が調理して提供している。また、夏場にはホームの畑で栽培した夏野菜と「お米」「リンゴ」「干し柿」「みかん」等、家族からの差し入れも食卓に上がり季節の味を楽しんでいる。誕生日には3時のお茶の時間にケーキを食べ、ハッピーバースデーの歌を歌い、誕生日カードを贈りお祝いしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 医療面での指示が出ている方は、指示通りに提供している。食事量、形態は一人ひとりの状態や習慣に応じた支援を行い、水分は指示を受けていない方は多めに提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアのこえがけ、誘導して口腔内を清潔に保っている。必ず職員がチェックを兼ねて磨きなおしている。月1回歯科衛生士による指導を受け、歯科医と連携している。 | | |

グループホームこもれ陽栗田

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 昼夜共に排泄のパターンを把握、または利用者の様子を観察し、排泄誘導し、できる限りトイレでの排泄ができるように支援している。 | 全介助の方が若干名で、他の利用者は一部介助という状況である。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、排泄表も参考に定時誘導し、また、一人ひとりの様子を見てトイレにお連れするようにしている。排便については3日～4日ない場合、排便コントロールを行い、毎食時、10時、15時のお茶の時間を中心に「お茶」「コーヒー」「紅茶」「スポーツドリンク」「ジュース」等、1日1,200cc以上の水分摂取を心掛け、スムーズな排便に繋げている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄表に記録し、排便状況の把握をしている。食物や水分補給、乳製品の提供、運動への働きかけなど行っている。看護師との連携により内服薬の使用も行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本的に入浴日を決めているが、その方の心身の状態により柔軟な対応をしている。 | 全利用者が何らかの介助が必要な状況となっている。入浴拒否の利用者もなく週2回入浴を行っている。浴室には3方向から介助の出来る浴槽があり、保湿効果のある入浴剤を使いゆっくりと入浴して頂いている。また、「ゆず湯」等も行い季節のお風呂も楽しんでいる。更に、入浴後には200ccのスポーツドリンクを飲み寛ぎのひと時を過ごしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1人1人の生活リズムやその時々状況に応じた対応をしている。居室の室温、寝具なども含め、気持ちよく眠れるような環境にも配慮している。今までの生活習慣も考慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 1人1人の薬は職員が把握できるよう個人ファイルに綴ると共に薬が変わる場合は看護師に説明を求め、職員が把握できるよう努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常の暮らしの中で一人ひとりの力を生かした役割や楽しみごと、散歩、買い物など気分転換等の支援をしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近隣への散歩、敷地内、デッキなどで外気に触れていただく時間を持つことが出来るように支援している。地域の行事への参加、家族との外出など連携をとりながら外出できるようにしている。 | 外出時、自力歩行の方が半数強、歩行器使用の方が若干名、車いす使用の方が数名という状況である。天気の良い日には近隣を散歩したり、敷地内の花を見たりウッドデッキで外気浴を楽しんでいる。新型コロナウイルス禍が長引き以前のようない外出レクリエーションが出来ない状況が続いているが、春には少人数に分かれ川中島古戦場に桜の花見に出掛け利用者も喜ばれたという。また、11月23日のえびす講「花火大会」の際には全員で楽しいひと時を過ごしたという。来年度は年間計画を立て、人出の少ない日、場所を選び、季節に合わせて外出を実施する予定である。 | |

グループホームこもれ陽栗田

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族と相談のうえ、買い物、受診時の支払いをして頂いている。日用品や衣類などを家族と共に買い物に出かけ、レジでの支払いをして頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族からの電話に出ていただき、声を聴いたり話をして頂いたりしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 狭い空間であるが、テーブルの配置を考えたり、グリーンや花、絵を飾るなど気持ちの良い環境づくりに努めている。 | 玄関先にはこじんまりとした家庭菜園用の畑があり、春から夏にかけ、ナス、きゅうり等の野菜を作り、利用者もその成長や収穫を楽しんでいる。また、1階にはウッドデッキが設けられ外気浴を楽しむスペースとなっている。一日の大半を過ごす食堂は家庭的な雰囲気、温かさが感じられ、長い廊下にはソファが置かれ自由に寛げるよう工夫がされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 限られた空間ではあるが、居室、リビング以外の廊下にソファを設置し、仲間と会話をしたり、一人で過ごせる空間を作ったりしている。また、ウッドデッキの活用をし、天気の良い日はいすに座ってくつろいでいただけるスペースとしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族には危険なもの以外であれば馴染みの家具や品物を持ち込んでいただけるように支援している。 | 整理整頓が行き届いた各居室にはエアコンと広いクローゼットが完備されている。持ち込みは自由で、家族と相談の上、使い慣れたタンス、イス、テーブル、テレビ等がレイアウトされ、位牌や家族の写真、自分の作品等に囲まれ、思い思いの生活を送っていることが窺えた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 1人1人のできること、わかることを把握し、安全かつ自立して生活が送れるように支援している。 | | |